

海外安全対策情報 平成28年度第4四半期

1 社会・治安情勢

(1) 1月16日午前7時31分、マナス国際空港付近の住宅地において、トルコ航空貨物機が墜落し、計38人が死亡した。

(2) 1月17日、ジャララバード州において、現在再審中のアスカロフ弁護士に対し、終身刑判決を維持するよう求めるデモが行われた。

(3) 1月31日、ビシュケク市国家安全保障委員会前において、同委員会がサリャノヴァ議員を容疑者として尋問していることに抗議する20人規模のデモが行われた。

(4) 2月7日、ビシュケク市及びカラ・バルタ市において、カラ・バルタ市長に反対するデモが行われた。

(5) 2月7日、ナリン市において、電力料金の引き下げを求める100人規模のデモが行われた。

(6) 2月8日、タラス市裁判所前において、公正な裁判を求めるデモが行われた。

(7) 2月8日、ジャララバード州トクトグール地区において、電力料金の引き下げを求める150人規模のデモが行われた。

(8) 2月15日、大統領府前において、ビシュケク市内所在のビール工場「アルパ」周辺の路上バザール商人の強制排除に反対する20人規模のデモが行われた。

(9) 2月16日、大統領府前において、ビシュケク市内所在のビール工場「アルパ」周辺の路上バザール商人の強制排除に反対する100人規模のデモが行われた。

(10) 2月21日、大統領府前において、客年6月に拘束された政治家であるサルグロフ氏への公正な裁判を求める20人規模のデモが行われた。

(11) 2月26日、国家安全保障委員会前及びアラ・トー広場において、テケバエフ「アラ・メケン」党党首逮捕に反対するデモ及び集会が行われた。

(12) 2月26日、ジャララバード州バザール・コルゴン地区において、テケバエフ「アラ・メケン」党党首逮捕に反対するデモ及び集会が行われた。

(13) 3月6日、ビシュケク市国会議会前において、バティラリエフ保健大臣の辞任を求めるデモが行われた。

(14) 3月7日、ジャララバード市において、野党政治家アサノフ氏の支持者が同氏の釈放を求める30人規模のデモが行われた。

(15) 3月9日、ビシュケク市アラ・トー広場において、テケバエフ「アタ・メケン」党党首逮捕に抗議する集会が行われた。

(16) 3月9日、ジャララバード州バザール・コルゴン地区からジャララバード市において、テケバエフ「アタ・メケン」党党首の支持者が行進を行った。

(17) 3月12日、ナリン市周辺において、中国の税関規則変更に対する100人規模の集会が行われた。

(18) 3月13日、ビシュケク市国会議会前において、ディーガン市場の閉鎖命令に反対する数十人規模のデモが行われた。

(19) 3月13日、チュイ州ケミン地区において、土地の配分を求める70人規模のデモが行われた。

(20) 3月14日、ビシュケク市国会議会前において、チュイ州ダチャ・スー村（トルコ航空貨物機墜落事故現場）の住民が、政府の対応に不満を表明するデモを行った。

(21) 3月16日、ビシュケク市において、ディーガン市場の閉鎖命令に反対する300人規模のデモが行われた。

(22) 3月18日午前10時ころ、ビシュケク市バイテック・バートル通りとトコンバエバ通りの交差点付近において、言論の自由を求めるデモが実施され、デモの参加者の内5人が現場の警察官の指示に従わなかったとして拘束された。

(23) 3月25日、ビシュケク市、ジャララバード市及びオシュ市において、ジャパロフ元国会議員の拘束に抗議する集会が行われ、68人が身柄拘束された。

(24) 3月25日、バトケン州カダムジャイ地区において、シャムベサイ鉱山の開発に反対する100人規模のデモが行われた。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

殺人、強盗等の凶悪事件が散見される他、空き巣、公共交通機関やバザールでのスリ、置き引き等の窃盗事件が日常的に発生し、銃器薬物関係犯罪の発生も多い。日本人は、路上強盗、窃盗、また官憲による賄賂の要求等に特に注意を要する。

(1) 殺人・強盗等、凶悪犯罪の一例

ア 1月7日深夜、ビシュケク市バイティック・バートル通りとクラトバ通りの交差点付近に所在する現金交換所に強盗が押し入り、現金500,000ソムを強奪した。現在、警察が被疑者の行方を追っている。

イ 1月8日午後9時ころ、チュイ州アラメディン地区レベジノフカ村において住居に侵入した上、現金及び携帯電話を強奪する強盗事件が発生し、1月10日、警察が被疑者2人を逮捕したと発表した。

ウ 1月9日午後9時30分ころ、チュイ州トクモク市のスーパーマーケット

ットにおいて、店員を刃物で脅した上、現金6,000ソムを強奪する強盗事件が発生し、1月11日、警察が被疑者を逮捕したと発表した。

エ 1月13日午前3時10分ころ、ビシュケク市において、民家に侵入した上、住人を暴行し、現金20,000ソム、旅券及びIDカードを強奪する強盗事件が発生し、1月17日、警察が被疑者3人を逮捕したと発表した。

オ 1月24日午前4時30分ころ、ビシュケク市西バスターミナル付近において携帯電話を強奪する強盗事件が発生し、同日、警察が被疑者2人を逮捕した。

カ 1月18日午後0時10分ころ、ビシュケク市アク・オールド地区に所在する商店に強盗が押し入り、現金16,000ソムを強奪する強盗事件が発生し、2月17日、警察が被疑者を逮捕したと発表した。

キ 2月13日、ビシュケク市において、住居に侵入した上、おもちゃの拳銃で住民を恐喝し、現金800ドル、5,000ソム、貴金属及び携帯電話を強奪する強盗事件が発生し、2月21日、警察が被疑者5人を逮捕したと発表した。

ク 13日、警察は、ビシュケク市内において連続発生していた外国人対象強盗事件被疑者4人を逮捕したと発表した。

ケ 13日午前11時42分、ビシュケク市において多額の現金を強奪する強盗事件が発生し、同日、警察が被疑者を逮捕した。

コ 3月16日午前1時ころ、ビシュケク市に所在するスーパー「ゴーイン」前において携帯電話を強奪する強盗事件が発生し、17日、警察が被疑者2人を逮捕したと発表した。

(2) 邦人被害

認知していない。

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) テロ事件

ア 1月17日、内務省は、ジャララバード州スザク地区において、宗教過激組織「ヒズブ・タフリール」構成員の自宅等の家宅捜索を実施し、書籍、パンフレット、リーフレット及びDVDを押収したと発表した。

イ 1月19日、国家安全保障委員会は、オシュ州カラ・スー地区において、宗教過激組織「ヒズブ・タフリール」構成員1人を逮捕した。被疑者の自宅を捜索した結果、NGO組織「ビル・ドゥイノ」に関する資料が発見された。

ウ 1月20日、国家安全保障委員会は、チュイ州において、トルコから56,000偽米ドル札を密輸した被疑者3人を逮捕した。被疑者らは昨年8

月30日に発生した中国大使館爆破事件に関与しているとみられ、当局が現在捜査中である。

エ 2月2日、国家安全保障委員会は、ビシュケク市において、国際テロ組織への資金調達を行っていた被疑者を逮捕した。被疑者はオシュ州出身で、過去にエジプト及びシリアの宗教学校に留学し、同地において国際テロ組織の指導者らと知り合ったことが判明している。

オ 2月10日、内務省は、オシュ州カラ・スー地区において、宗教過激組織「ヒズブ・タフリール」構成員8人を拘束し、宗教過激主義に関する証拠品を押収した。

カ 2月10日、内務省は、チュイ州において、宗教過激組織「ヤキン・インカル」構成員13人を明らかにした上、宗教過激主義的な内容が記載された書籍を所持していた同構成員4人を拘束した。

キ 2月24日、内務省第10総局は、ジャララバード州スザク地区において、宗教過激組織「ヒズブ・タフリール」構成員3人を拘束し、宗教過激主義に関する書籍38冊、DVDディスク16枚、ノート4冊、リーフレット33葉、携帯電話及びフラッシュカードを押収した。

ク 3月9日、国家安全保障委員会は、オシュ州カラ・スー地区において、シリア及びイラクの戦闘地域にキルギス国民を送り込んでいた「ジャアマット・タウヒード・バ・ジハード」構成員1人を逮捕したと発表した。

ケ 3月11日、内務省は、チュイ州において、宗教過激組織「ヒズブ・タフリール」構成員である医師及び高校教師を拘束し、宗教過激主義に関する書籍やパンフレット80冊、DVDディスク50枚、ビデオカセット10個、オーディオカセット10個、フラッシュメモリー10枚、コンピュータ2台、タブレット端末及び携帯電話を押収した。

コ 3月14日、国家安全保障委員会は、オシュ州において、宗教過激組織「ヒズブ・タフリール」構成員を拘束し、証拠品を押収したと発表した。

サ 3月16日、内務省は、チュイ州アラメディン地区において、ヒズブ・タフリール支持者3人を拘束したと発表した。

シ 3月23日、国家安全保障委員会は、イシククリ州カラコル市において、宗教過激組織「ヒズブ・タフリール」の活動家を拘束し、宗教過激主義に関する書籍や記録媒体等を押収したと発表した。

ス 3月25日、内務省第10総局は、人種的、宗教的及び地域的な憎悪を扇動した容疑で指名手配されていた宗教過激組織「ヒズブ・タフリール」構成員1人を逮捕した。

(2) 爆弾事件

ア 1月4日、ビシュケク市アタ・チュルク公園において爆破事件が発生

し、1月11日、警察が被疑者を逮捕したと発表した。

イ 1月31日、国家安全保障委員会は、ナリン州トグス・トロ地区において、爆発物42キロ及び起爆装置50個を隠匿していた被疑者を逮捕したと発表した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

(1) 誘拐・脅迫犯罪の一例

ア 1月23日午後7時ころ、ビシュケク市ジベックジョル通りとスユンバエバ通りの交差点付近において女性を恐喝した上、携帯電話を強奪する強盗事件が発生し、1月25日、警察が被疑者を逮捕したと発表した。

イ 2月15日、内務省は、バトケン州において、誘拐及び恐喝容疑で被疑者4人を逮捕したと発表した。被疑者の内1人は宗教過激組織の活動家として登録されており、また、被疑者らには他にも強盗の容疑があり、警察が現在捜査中である。

(2) 邦人被害

認知していない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

キルギスでは、1999年8月に南部バトケン州において、邦人4名等が過激派武装勢力により誘拐されており、注意を要する。